

みやこ とうふくもんいん
花洛の装い-東福門院の豪華な「きもの」-
～「寛永行幸四百年祭 寛永文化講座」を3月15日に開催～

- 寛永行幸四百年祭実行委員会（事務局：京都府）では、4月に開幕する「寛永行幸四百年祭」に向けて、機運醸成を目的とした様々なイベントを実施しています。
- 江戸時代前期の小袖復元研究に取り組まれている研究者を講師に迎えた文化講座を3月15日に開催しますので、周知と取材をお願いします。

1 日時

令和8年3月15日（日）14時～15時40分（13時30分開場）

2 場所

京都府公館 レセプションホール（京都市上京区 一条下る龍前町 590-1）

3 内容

元和6年（1620年）に後水尾天皇のもとへ入内し、江戸初期の宮廷と幕府のかけはしとなった徳川秀忠の五女・徳川和子（後の東福門院）をとりあげ、現代でいう「ファッションリーダー」とされた徳川和子が宮廷に持ち込んだ「小袖」について考察・紹介いただきます。

講師：河上 繁樹（大阪学院大学 国際学部 教授）

4 参加方法

専用サイト（Peatix）から申込 ※定員になり次第受付終了
申込期間 令和8年2月20日（金）10時～3月13日（金）17時
URL：<https://kaneibunka20260315.peatix.com>



5 定員

先着70名（参加無料）

6 取材について

取材を希望される場合は、13時50分までに会場受付へお越しくください。

7 主催等

主催：寛永行幸四百年祭実行委員会（文化庁連携プラットフォーム内）
共催：Living History KYOTO、Living History in 京都・二条城協議会

【参考】

○ 寛永行幸

寛永3年（1626年）9月に大御所・徳川秀忠と3代将軍・徳川家光の招きに応じた後水尾天皇による二条城への行幸。当時最大級のイベントであり、書物や絵巻などで記録に残され、後世に語り継がれてきた。

（次頁あり）

○ 寛永行幸四百年祭実行委員会

「寛永行幸四百年祭」の実施を通じた「寛永行幸」及び「寛永文化」の普及・啓発や二条城の新たなブランドの確立等により、京都をはじめとする日本の伝統文化の継承や担い手の育成、伝統産業の振興等をつなげ、「文化と経済の好循環」を実現し、その全国のモデルケースを創出することを目的とし、文化庁連携プラットフォーム内で組織した団体。

○ 文化庁連携プラットフォーム

文化庁京都移転の意義の実現に向けて、文化庁との連携による新たな文化政策の展開や、世界に向けた日本文化の発信等を行政、経済界、文化団体等が一体となって展開し、日本文化の国際的な価値を高めることを目的とし組織した団体。

【本報道発表に関するお問合せ】

文化庁連携プラットフォーム（京都府文化政策室内）

文化生活部副部長兼文化政策室長 梅原 TEL 075-414-4215

文化政策室 企画参事 須田 TEL 075-414-5071





寛永文化講座

第9回

花洛の装い

みやこ

—東福門院の豪華な「きもの」—

講師 河上 繁樹氏 (大阪学院大学 国際学部 教授)

元和6(1620)年、14歳で後水尾天皇のもとへ入内し、江戸初期の宮廷と幕府のかけはしとなった徳川和子(後の東福門院)。寛永のころ、女院の御所の好みで始められたという御所染は、宮廷の女性ばかりでなく、京の市中や田舎にまで広がりました。東福門院は京都の呉服商雁金屋に小袖を注文しましたが、50代半ばのころには1年間で170枚余りにも及びました。それらの小袖は当時の最高級品でした。現存する雁金屋の史料から東福門院の好んだ小袖について考察します。



野村正治郎衣裳コレクションのうち黒縮子地斜格子菊吉祥文模様の襦袢巻(国立歴史民俗博物館蔵)

河上 繁樹氏 プロフィール



1956年大阪生まれ。文化庁美術工芸課、京都国立博物館、関西学院大学教授を経て現職にいたる。日本および中国の染織・服飾史を研究。京都国立博物館在任中には特別展『花洛のモード—きもの時代』を企画。江戸時代前期の小袖復元研究にも取り組む。近著に『装いの美術史—織りと染めが彩なす服飾美—』(思文閣出版)がある。

2026年 3月15日(日)

14:00(13:30開場)

14:00 寛永行幸四百年祭ご紹介
14:10 河上繁樹氏講演
15:40 終了予定

参加費: 無 料

会場: 京都府公館 (京都府立府民ホール アルティ)
京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1
(地下鉄「今出川」駅6番出口より南へ徒歩5分)

定員: 70名程度(先着順)

申し込み先: Peatix

<本イベントに関するお問い合わせ>
実行委員会事務局
info@kaneigyoko400.jp
TEL.080-9923-4252
(土日祝除く 10:00~16:00)

お申し込みは Peatixより



寛永文化講座とは?

2026年は、寛永3(1626)年に後水尾天皇が二条城に行幸されてから400年の節目の年です。寛永時代は能、狂言、茶の湯といった文化が隆盛し、市中にいくつもの“サロン”が形成されました。このサロンを舞台に文化が洗練され、多くの人々をひきつけ、現代へとつながることから「寛永は文化の故郷」といわれています。「寛永文化講座」は、この時代に花開いた文化の特質をさまざまなジャンルの専門家に語っていただき、多角的な視点から寛永文化の総合性や現代における意義を考えていこうというものです。

「寛永行幸四百年祭」を応援したい!

基金で応援

京都文化交流コンベンションビューロー
「寛永1626基金」で
寄付を募集しています。

ふるさと納税で応援

京都府の
企業版ふるさと納税による
寄付を募集しています。

連携・認定事業で参加

「寛永」をテーマにした独自事業や関連行事を
実施していただける企業・団体を募集しています。
お問合せ: info@kaneigyoko400.jp

実行委員会では、寄付などを募集しています。
皆さんも歴史に参加しませんか。

詳細はこちら



主催 寛永行幸四百年祭実行委員会
(文化庁連携プラットフォーム内)
https://kaneigyoko400.jp/

共催 Living History KYOTO
Living History in 京都・二条城協議会

最新情報は
公式HP・SNSで
チェック!



公式HP



FACEBOOK



Instagram



X

絵:「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)